

第6章

水資源に関する理解の促進

1 水資源に関する理解の促進 ～「水の日」及び「水の週間」～

政府は、水の貴重さや水資源開発の重要性に対する国民の関心を高め、理解を深めるために、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として定め（昭和52年（1977年）5月31日閣議了解）、水に関する各種の活動を国、地方公共団体及び関係諸団体の緊密な協力のもとに実施している。

平成25年（2013年）の「水の日」及び「水の週間」は第37回を迎えた。現在、安全・安心な水の継続的な利用のために、地球温暖化を含めた渇水リスク、今後起こりえる大規模な地震災害等、水資源施設の老朽化など、早急に対応すべき課題がある。このような状況を踏まえ、国民一人一人に水資源の重要性の理解と関心を深めてもらうため、「安全・安心な水のために」をテーマとして、以下の活動が実施された（参考6-1-1）。

（1）水の週間中央行事「水の週間シンポジウム」

東京都港区の発明会館ホールにおいて、約300名に会場いただき、「水の週間シンポジウム」を開催した。シンポジウム主催者である国土交通省、東京都、水の週間実行委員会による挨拶の後、「第35回全日本中学生水の作文コンクール」最優秀作品の披露として、受賞者による朗読、「安全・安心な水のために」をテーマとした講演や、「平成25年度水資源功績者」、「第35回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第28回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品等の展示を行った。

【基調講演】

「水道の水をのめる国であるために」 中央大学理工学部教授 山田 正 氏

【講演】

- ・「多摩川源流体験教室（水源地における取組み）」

多摩川源流研究所所長 中村 文明 氏

- ・「市民がしらべる身近な水環境の全国一斉調査」

全国水環境マップ実行委員会事務局長 佐山 公一 氏

- ・「バングラデシュにおける持続可能な安全な飲み水の確保の取組み」

（株）天水研究所代表取締役 村瀬 誠 氏

- ・「アジアにおける総合水資源管理の取組み」

（独）水資源機構国際グループ 川崎 忠成 氏

【その他】

「“水のめぐみ” とふれあう水の里の旅コンテスト2013」最優秀賞受賞企画の紹介
しらやま振興会 森 和恵 氏

（2）水の週間中央行事「水の展示会」

東京都千代田区の東京国際フォーラムにて、東京国際フォーラムが開催する「丸の内キッズジャンボリー2013」に参加し、一部スペースで「水の展示会」を開催した。

(3) 第35回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「全日本中学生水の作文コンクール」を実施した。応募作文総数は18,191編にのぼり、各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞1編、優秀賞5編、及び入選27編が選ばれた。最優秀賞受賞者に国土交通大臣から、優秀賞受賞者に関係団体代表者から賞状が授与された。

(4) 平成25年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域対策、水環境の保全、水源涵養及び水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体に対して、国土交通大臣賞を授与した。

(5) 第28回水とのふれあいフォトコンテスト

「水辺の憩い、水のある風景」、「くらしの中で毎日使う水」、「作物や草木を育て、エネルギーを生む水」などをテーマにフォトコンテストを実施し、優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与した。

(6) 水の週間一斉打ち水大作戦

雨水や下水再生水など水道水以外の水を有効利用し、その効果を体感し、水を賢く使う先人の知恵を実感してもらうとともに水について考えていただくことを目的として、全国各地で一斉に打ち水をする、水の週間一斉打ち水大作戦を実施した（参考6-1-2）。

(7) その他

全国各地で、水に関する展示会、講演会、シンポジウム、水資源開発施設見学会、水源地域と水消費地域の人々の連帯意識醸成のための上下流交流会などが開催された（参考6-1-3）。